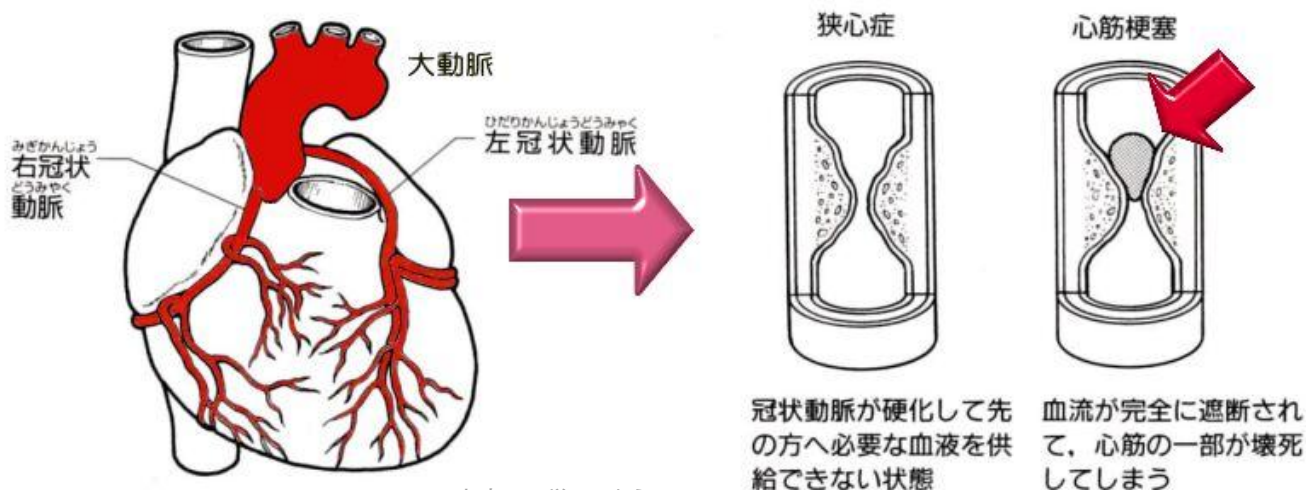


週刊 タバコの正体

心臓を構成する筋肉は心筋と呼ばれ、一分間に70回前後の収縮・緊張を繰り返しています。一日あたりに換算すると毎日約10万回も動き続けているので、心筋には十分な酸素と栄養が必要です。心筋に酸素と栄養を届けているのが、下図に示す“冠状動脈”で“右冠状動脈”と“左冠状動脈”に分かれ心臓全体をカバーしています。

喫煙などが原因で、この冠状動脈に動脈硬化を発生することがあります。動脈が硬化して血流が少なくなると心臓を動かす血液が不足するので、胸に痛みや圧迫感を感じるようになります。その度合いは様々なのですが強い痛みを伴う場合もあるようです。これが「狭心症」と呼ばれる病気です。そして、冠状動脈がさらに狭くなって完全にふさがって血液が止まったままになると、その部分の心筋細胞が死んでしまいます。これが「心筋梗塞」という病気です。この場合も強い胸の痛みを襲われる事が多く、「狭心症」は長くても30分程度で痛みがおさまるのに対し、「心筋梗塞」はそれ以上続くと言われています。



心筋梗塞を発症すると時間が経過するほどに壊死する心筋が増えていきます。全身に血液を送る心臓の筋肉が死んでいくのですから、速やかに処置をしないと命に関わる深刻な事態を招きます。突然発症する急性心筋梗塞は死亡率が高く、特に48時間以内の死亡が非常に多いと言われています。

だからもし、発作に遭遇した場合は大至急、救急車を呼ばなければなりません。



こんな状況を想像しただけでも気持ちが重くなりませんか。そして、自分の身にこんな事が起こるなんて考えたくないですよ。

だから、タバコに手を出してはいけません。

産業デザイン科 奥田 恭久